

1 入居(所)者の状況(3月 29 日)		(男性 4 人、女性 14 人)										
内 訳	要支援2	0人	要介護1	3人	要介護2	0人	要介護3	7人	要介護4	3人	要介護5	5人
2 月	入居(所)	0 人	(特記事項)									
	退居(所)	0 人										
3 月	入居(所)	0 人										
	退居(所)	0 人										
2 主な活動、出来事												
2 月 7 日	第1回運営推進会議内容の意見・要望を各関係者に郵送する。(生石・味生地区支援センター意見・要望の返答あり) 2/19松山市介護保険課へ運推報告書郵送する。											
2 月 8 日	節分レク(節分由来の劇を職員で披露する)											
2 月 9 日	ユニット会議(各利用者のケアについて。次回の運営推進会議内容について)											
2 月 14 日	土砂災害訓練行う(日中想定)											
3 月 11.13 日	ユニット会議行う(運推テーマ、各利用者のケアについて、業務連絡事項) 菜の花をみに見奈良へ行く											
3 月 17 日	インシデント委員会開催											
3 月 26 日	利用者様の誕生日会行う											
3 月 29 日	焼きそばパーティーを行い皆で交流を深める											
月 日												
3 次期の主な活動予定												
4 月 日	お花見行事 ・第1回身体拘束虐待化適正委員会開催											
5 月 日	施設内資質向上研修 ・防災訓練 ・節句行事 ・第2回運営推進会議											
月 日												
月 日												
月 日												
4 特記事項、その他												
①												
②												
③												
④												

介護ケア事例研究

1. 基本情報

利用者名 S氏	年齢 60歳代	性別 男	要介護度 3
認知症高齢者の日常生活自立度		障害高齢者の日常生活自立度	

2. ADLの状況

日常生活動作はほぼ問題なし。たまにトイレの場所が分からない、衣類の着方が分からなくなったりはある。耳が遠いため、職員の言葉が聞き取れず理解できない時がある。

3. 本人の課題

仕事に行かなければいけない、お金が欲しい、等と精神的に不安定になり落ち着きがなくなる。急に怒りだしたり、外へ出て行ってしまう。話も二転三転し、突発的な行動を取る事がある。

4. ケアプラン

長期目標

精神的に安定し、日々を過ごす事ができる

短期目標

外に出て行く事が減る、怒る事が少なくなる、仕事やお金への執着心が減る

ケア内容

- ・本人の訴えをちゃんと聞いて理解する事に努める
- ・本人が感情的になっても落ち着いて対応する
(職員一人のみで対応せず、全員で行う事)
- ・外に出て行く事を無理に止めない
- ・レク、散歩、ドライブなど気分転換できるような事を考える

介護ケア事例研究

5. 実施内容

<p>〈かかわり〉</p> <ul style="list-style-type: none">・一か月気分の推移表を作り、一日を通して気分がどのように変化するのか、「良い・悪い・普通」で判断してみた・本人の訴えを初めから否定せず話を聞くようにした・外に出て行くときは何も言わず後ろから付いて行くようにした・ドライブへのお誘い、レクリエーションは職員や他の利用者と関われるようセッティングした	<p>〈本人の様子〉</p> <ul style="list-style-type: none">・話を聞いて、本人も納得して落ち着く時もあったが、初めから怒り口調で不穏の時は何を言っても聞く耳持たずで治まらなかった・外へ出て行っても声掛けに応じ、すぐ戻ってこられた・レクリエーションやドライブなどのお誘いについては断らず、比較的楽しんで参加できていたように思う
---	---

6. 考察

<ul style="list-style-type: none">・推移表は今後も継続していき、気分の変化を把握していく・不穏になるきっかけは掴めず、突然の怒りや不機嫌さは本人の中での不安な思いが止まらず、こちらが何かでごまかそうとしても納得できない事だと思われる(不安要素が払拭できない)・レクや外出等は気分転換や本人のストレス軽減にも繋がると思われる為継続していく・日々のお手伝いへの参加には普段からねぎらいの言葉をかけるようにする事も大切だと感じた・年中穏やかに過ごせるようになるのは難しいように思うが、普段の接し方や態度を見直していく事を継続し、本人の思いに寄り添うケアを行っていく
--

介護ケア事例研究

1. 基本情報

利用者名 K氏	70歳代	女性	要介護 3
認知症高齢者の日常生活自立度		障害高齢者の日常生活自立度	

2. 本人の状況

日常の生活は理解できてはいる。食事は自立。声掛けや誘導にて衣類の着脱を行うことはできるが自分が出来ない事に不安が増し落ち着かなくなる。トイレの後始末も出来なくなってきており、トイレ内を排泄物で汚してしまう。簡単なお手伝い(お盆拭きやテーブル拭き)は出来るが盛り付けや洗濯たたみ・干しなどの理解はあるが実行に移すことが困難である。コミュニケーションはできる。性格は人と話すことが好きで穏やかな性格である。

3. 本人のニーズ・課題

・トイレの後始末が困らない ・自分にあったお手伝いやレクができ自信を持ちたい。

長期目標

自分に自信がもてる

短期目標

困りごとが軽減する・コミュニケーションを図り楽しめることが出来る(二か月間の様子を評価する)

ケア内容

- ・排泄時間を把握し適時にトイレの声掛け行う
- ・トイレ後のパッドの確認と自分で出来る動作の促し。
- ・レクやお手伝いに参加し皆と関わる時間を作る

介護ケア事例研究

インシデント委員会開催

R3.3/17

各ユニットの意見

- ・さくらんぼユニット→・一定の利用者のインシデントが多く内容も下肢筋力低下によるふらつきが、主である。インシデントが提出されるたびに、職員で検討し「見守りする」と、意識づけになり今は同じ内容のインシデントがはあがっていない。

- ・ぼんかんユニット→・ベット柵を外し床へずり落ちる利用者がおり特に夜間多くみられた。日中の過ごし方や睡眠状況、精神状況など主治医や家族と相談しながらケアに努めていた。不穩になることはあるが、寝る体勢を右側にすると眠りにつくようになりベット柵を外すことが減ってきている。それでも眠れず不穩状態が何時間も続くときは薬服用してもらっている。

- ・超高齢の利用者で今後の方向性についてはターミナルの領域に近いと主治医から診断されている。皮膚状態も薄く剥離になる要素が多い。清拭や入浴介助は2人介助で行うが、オムツ交換などは1人で行うことが多い。今以上に意識を高め介助をおこなう。